

令和2年度 福岡高等学校アクションプラン — 1 —

重点項目	学習活動（教科指導の充実）	
重点課題	教科指導の充実・教育力の向上と自主的学習習慣の定着	
現 状	<p><教科指導の充実・教育力の向上></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学進学を目指す生徒がほとんどであり、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、教科指導の充実・教育力の向上が求められている。また、ICT環境の整備に伴い、その利活用の推進が必須である。 <p><生徒の学力向上></p> <ul style="list-style-type: none"> ・週末課題やFT（福岡タイムという名称の小テスト）により自主的学習習慣が定着して、学力を向上させている生徒がいる一方で、週末や休日の過ごし方に不安を抱えている生徒もいる。 <p><進路意識の向上></p> <ul style="list-style-type: none"> ・真面目な生徒が多いが、目標を持たずただ漠然と学習している生徒も見られる。学年に応じた進路意識の向上を図り、生徒各々が適切な進路目標を設定できるような指導が必要である。 	
達成目標	①互見授業の参観回数授業改善のための外部研修会等への参加回数	②自己評価シートの自己の学習に対する満足度（4点満点）
	① 参観2回以上、外部研修会等2回以上	②全学年とも学年平均2.8点以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・互見授業を実施し、参観者の助言を踏まえて授業改善に努めるとともに、教科部会を開き、教科全体で事後研修を行う。 ・外部の研修会や公開授業を随時案内し、参加を推奨する。参加した者が研修内容を教科で伝達講習し、指導法の改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や課題等、学習への取り組みについて、生徒の自己評価を実施する。 ・学習状況調査や自己評価集計により生徒の実態と学習意識を把握する。 ・教科間で課題の与え方や内容・量を調整し、生徒の自主的学習の効果が上がるよう工夫するとともに、きめ細かい面接指導を行う。
達成度	<p>①互見授業の参観回数 ※（ ）はR1</p> <p>平均 3.1回(2.8回)</p> <p>1学期 1.6回(1.5回)</p> <p>2学期 1.5回(1.3回)</p>	<p>②生徒の自己評価シートの平均 ※（ ）はR1</p> <p>1年 2.8点／4点満点 (2.7点)</p> <p>2年 2.8点／4点満点 (2.8点)</p> <p>3年 3.1点／4点満点 (3.0点)</p>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・互見授業は、例年 年2回、1学期と2学期にそれぞれ2週間ずつ実施している。今年は目標の3回は達成した。コロナ禍で外部研修会が少なかったため、達成度評価から除外した。一方、オンライン授業や「G Suite for Education」を使った情報・連絡・課題等の発信に関する研修が進み、実践された。また、各HR教室にプロジェクターが設置され、授業や「探究の時間」で活用されている。 ・学習に対する自己評価は、各学期末に実施。集計結果によると、1・2年の点がやや低い要因は、与えられた課題はできるが、疑問点の質問や週末や自宅学習の自主的取り組みの項目で点が低かったことにある。特に2年生の1学期から2学期への落ち込みが大きかった。3年は上がってきた。 	
評 価	A	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを使った授業など、今後に向けてさらに研修等で工夫を重ねてほしい。 ・生徒への課題について量や出し方など分析が必要ではないか。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、新学習指導要領やICT教育など、授業改善に向けて研修がより一層不可欠になってくる。生徒同様に教員も自ら意欲的に学ぶ姿勢が必要である。外部の研修会や公開授業への参加を推奨するだけでなく、日常業務を精選し参加しやすい環境作りが必要である。 ・自宅学習のやり方や週末の過ごし方に不安を抱えている生徒が少なくない。自主的学習の取り組み方の育成が必要である。勿論それは何も課題を与えないということではなく、適切な課題内容やその取り組み指導が重要である。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和2年度 福岡高等学校アクションプラン —2—

重点項目	学習活動（実践的英語力の充実）	
重点課題	CAN-DO リストの指導目標に基づき、ライティング、スピーキングの指導を通して、自ら考え、より自在に英語で表現することのできる生徒の育成	
現 状	4技能を使った授業の効果として、会話を継続する対話力、文章での表現力は向上しているが、自らすすんで意見を述べる積極性や物事をより深く考える思考力を今後も磨く必要がある。	
達成目標	①GTEC（コミュニケーション能力テスト）の得点 1年 690点以上(80%) 2年英語コース 810点以上(80%) 3年英語コース 900点以上(70%)	②実用英語技能検定の取得率 準2級 80%以上(1年で) 2級 90%以上(3年英語コースで) 準1級 1名以上の合格
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・CAN-DO リストに基づき、それぞれの学習活動の意義を理解した上で活動させる。 ・ペアワークやグループワークを通して意見を伝え合い、問題を解決していく力を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の検定のうち、必ず1回は受験するよう指導する。 ・2次試験の面接対策として、個別指導を実施する。
達成度	①GTEC（コミュニケーション能力テスト）の得点 1年 690点以上 72 % 2年英語コース 810点以上 92 % 3年英語コース 900点以上 86 %	②実用英語技能検定の取得率 準2級 1年 104名 / 160名 (65%) 2級 1年 1名 2年英語コース 25 / 36名(70%) 3年英語コース 33 / 36名(92%) 準1級 4名(31H 3名、21H 1名)
具体的な取組状況	ライティングとスピーキングの能力を相互に高め合うために、生徒の意見や考えを引き出すための活動を工夫した。各学年の取り組みは以下のとおり。 (1学年)・コミュニケーション英語Ⅰ： 様々な活動を通して読解力及びリスニング力を育成する授業を実施 身近な話題について、自分の考えや意見を英語で書く活動を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・英語表現Ⅰ：基礎力定着のための文法演習 (2学年)・コミュニケーション英語Ⅱ：「Speaking→Writing→Speaking」の流れを毎パート行い、「即興性」と「具体性」をバランス良く高める活動を実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・音読と直読直解に焦点をあてた授業を実施。また、リスニング力、スピーキング力向上のため、CDやアプリの音声を積極的に活用。 ・英語表現Ⅱ：学んだ基本例文のバックトランスレーション(日→英)の徹底。その表現を用いて、身近な事柄について相手とのやりとりを2分間続ける練習。 ・英語セミナー(12月)：外国人留学生とのワークショップ (3学年)・英語探究：英字新聞の記事等に関して英語でペア・グループディスカッション 身近な話題や時事的な問題に関するディベートやディスカッション グループで世界の様々な問題をパワーポイントで発表、意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション英語Ⅲ：様々な分野の文章を読んで内容を理解させる活動を工夫した授業 ・英語表現Ⅱ：身近な事柄および時事的な問題について自分の意見を発信する授業 (全体) <ul style="list-style-type: none"> ・英語で自分の意見を表現する力の段階的な指導を継続している。 ・英語コースでは、英語セミナーや校内スピーチコンテスト、英語講演会など、授業外での活動も活発に行っており、英語での発信力を向上させた。 ・英検は、今年も英検準1級に挑戦した生徒が多数いる。 ・日々の授業の改善や、様々な行事をとおして、目標を概ね達成できた。 	
評 価	B	B
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡高校の英語の取組等をもっとアピールし、英語コース以外にも広めてほしい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・GTECや英検取得について、生徒にあらかじめ目標を提示し、生徒の各技能の伸長を図る指導を進める体制を整える。 ・近年英検準1級を受験する生徒が増えていることから、より意欲的に挑戦させる。 ・GTEC speaking テストを活用し、さらにスピーキング力を伸ばす指導を行っていく。 ・効果のあった指導法を、英語コース以外の生徒にもそのニーズや目標に見合う形で適用する。 	

重点項目	学校生活（生活指導の充実と健康な心身の育成）	
重点課題	基本的な生活習慣の確立と学校生活への適応	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 服装・行動などの流行に影響を受ける生徒が見られる。 ・ 来校者に対する挨拶や、目上の人に対する言葉遣いや接し方が不得手な生徒が見られる。 ・ SNSを含むインターネット等の利用に関し、安易な書き込みや長時間利用をする生徒がいる。 ・ 思春期における心の問題を抱えている生徒がいる。 ・ 生徒の美化意識は概ね良好であるが、よりいっそうの徹底が必要である。 	
達成目標	① 正しい制服の着こなしができた生徒の割合 95%以上 SNSの利用ルールを守れた生徒の割合 95%以上	② スクールカウンセリングや教育相談 年間15回以上 ③ 特別清掃等 年間7回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒主体での日頃からの呼びかけ。 ・ 定期的（月1回）な挨拶・服装指導やさわやか運動などでの指導。 ・ 着こなしセミナーの実施。 ・ 学校祭やHRでスマホ利用についての話し合いの機会設定。 ・ 学年や保健厚生部と連携し、生徒の悩みや問題行動について早期発見と迅速な対応に協力して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談担当者会議等により、不登校傾向の生徒への対応の共通理解を図る。 ・ カウンセラーによるカウンセリングの必要な生徒を把握し、実施後には関係者と協議をする。カウンセラーや医師による講演会を実施する。 ・ 充実した高校生活を送ることができるよう、統一HR等を実施する。 ・ 大掃除やワックスがけ等を実施し、生徒の学校美化意識を向上させる。
達成度	① 正しい制服の着こなしができた生徒の割合 91.3%（1年 89% 2年 90% 3年 96%） SNSの利用ルールを守れた生徒の割合 92.9%（1年 89% 2年 92% 3年 97%） （1月末生徒自己評価の平均値）	② スクールカウンセリング、教育相談担当者会議、統一ホームルーム 計18回 ③ 特別清掃・校内ワックスがけ 計7回
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月に1回、服装・挨拶・遅刻防止指導を実施。2月には、3日間の身だしなみ呼びかけ運動を行った。 ・ 10月22・23日 さわやか運動 今年度は生徒玄関2カ所での活動。 ・ 生徒会自治委員でスマホ利用についてのアンケートを実施し、9月18日の学校祭において展示発表した。 ・ 1学年において、HR3時間使ってクラスごとに話し合いやルール作りを実施。 ・ 春、夏、秋の交通安全運動期間に合わせ、福岡町上養交差点で交通安全指導。 ・ 1、2学期は毎月1日、15日に交通安全指導。 ・ 集会時を利用し、各指導や注意喚起を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月1回以上のスクールカウンセリングの日を設け、悩みを持つ生徒と面談するとともに、面談後に担任や学年主任を含めた個別指導会議を実施した。 ・ 学校保健委員会では、「リラックス法」をテーマに、スクールカウンセラーの小林先生による講習と手洗いチェックを実施した。 ・ 統一HRでは1学年が「クラスの中の自分」をテーマとしたワークシート、2学年は「イメージゲーム・伝言ゲーム」を実施した。 ・ 入学式・卒業式の前日、終業式当日などの節目には、大掃除や特別清掃を行い、普段は目の届かない場所を重点清掃項目として美化に取り組んだ。ワックスがけは、コロナウイルス感染防止の点から、今年度は実施しなかった。
評 価	B	A
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習時間とスマホの使用時間のバランスを生徒自身が考えられるようにしてほしい。 ・ 不登校の生徒などへの対応を引き続きお願いしたい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校則やきまりを受動的に守るのではなく、主体的に自分の意志で守る学校を目指したい。 ・ 自治委員の活躍の場を増やしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心の問題を抱える生徒に、教職員が保護者やSC、医療機関と連携して対応する教育相談体制の一層の充実を図りたい。 ・ 清掃は、概ね良好に行われているが、不十分な場合や、行き届かない場所もあるので、より一層美化意識を持たせるよう指導したい。

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった）

重点項目	進路支援（学力の伸長および進路目標の設定とその実現）	
重点課題	志望実現に向けての学力の伸長 進路意識の醸成と、目標実現に必要な努力を続ける姿勢の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力・適性に対する認識が十分でないため、将来の自分のあり方に対して、まだ主体的に考えることができていない生徒がいる。 ・計画的、継続的な学習習慣が定着していないため、目標実現に必要な学力に達していない生徒が少なくない。 	
達成目標	① 進路講話などによる進路意識の向上 校内での進路講話等 年間3回以上	② 学習時間 平日2時間以上、休日4時間以上 週 20時間以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAとの連携により、同窓生や保護者が1年生に自分の職業を話す『職業人が語る会』の実施により、生徒が身近な人から話を聞くことで、自己の将来について主体的に考える姿勢をつくる。 ・『栄冠への道』（合格体験記）や進路講話などにより、具体的な進路目標を持たせ、主体的に学習する態度を育てる。 ・3学期に、3年生が1・2年生に向けて「メッセージ」を送ること、さらに各担任が1学年下の生徒に対して講話を、卒業したばかりの3年生が2年生に講話を行うことで、新学年へ向けての意欲を高める。 ・保護者対象の進学説明会や大学見学会の実施などにより、より新しい進路情報を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「週間学習記録」「生徒自己評価シート」から得られた生徒の学習や生活状況に関する詳細なデータを共有し、学習習慣を確立させる指導に役立てる。 ・F T時に行う小テストや週末課題により、基礎学力の定着を図る。 ・校内模試、外部模試を有効に活用する。さらに、新学習指導要領の導入にあわせ、見直しを図る。 ・3年生は個別指導（教科、小論文）にも重点を置くことで、学力のさらなる伸長を図る。 ・進路指導委員会を適宜実施し、学年・進路で情報交換を図る。 ・適切な進路情報を提供する。 <p>※F T（福岡タイム）とは、昼のS T前10分間に行う、学年毎の活動時間のこと。</p>
達成度	① 生徒向け6回（外部講師を招聘してのもの） 保護者向け2回（PTA研修会）	② 平日2時間8分・休日3時間40分 週18時間2分 （1・2学期末生徒自己評価の平均値）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 大学見学会は、コロナウイルス感染拡大の影響で本年度は中止した。 ・他の行事も開催が危ぶまれたが、卒業生が講師となる進路ガイダンスは富山・石川在住の学生に限定するなど規模を縮小し実施、進路講演会も会場を朋友館から体育館に変更するなど工夫を施し、予定していた生徒向け行事は実施できた。 ・『職業人が語る会』『進路ガイダンス』など身近な人からの講話は生徒に好評で、進路意識の向上につながったと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「週間学習記録」により、気になる生徒には面接や声かけを行い、学習習慣定着へのアドバイスをした。朝、放課後の面接で進路意識の向上を図った。 ・週末課題への取り組みを徹底させることで、学習習慣定着を促した。しかし、平日の目標は例年並みで目標を達成したが、休日の学習時間が昨年より12分減少し、目標を20分下回った。 ・3年生は個別指導（教科、小論文）を実施し、面接指導を充実させ、進路目標実現のための意欲の向上に努めた。
評 価	A	C
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学だけでなく、その後に続くキャリア教育の視点で、生徒の進路意識の向上に一層取り組んでほしい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・休日の学習時間の確保が課題である。また、週末課題の提出が遅れる生徒や、理解不十分のまま提出を優先する生徒が見られる。日曜に慌てて課題に取り組むのではなく、土曜から週末課題に取り組む計画性を培う必要がある。課題の出し方（レベル別に課題の内容を選択できるようにするなど）、提出頻度などについても検討が必要である。 	

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった）

令和2年度 福岡高等学校アクションプラン —5—

重点項目	特別活動（ボランティアと図書）	
重点課題	ボランティア活動の実践 広報活動を活発化することで、年間貸出数を増加させる。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス単位による地域のごみ拾いに取り組む奉仕活動、ボランティア委員会や部活動を中心とした地域施設への訪問・交流等、地域活動への参加を行っている。 ・図書の貸し出し数：1月末現在(702冊)で昨年の年間貸し出し数(696冊)を超えている。1年生の貸し出し数が多く(453冊)、2年生は昨年同様、貸し出し数が伸びていない。(146冊) ・図書室の利用：早朝から夕方6時頃まで、授業のある日は毎日開館している。3年生の利用が目立つが、年間を通して、学年を問わず多くの生徒が学習場所として足を運んでいる。 	
達成目標	① 地域活動交流への参加人数 年間延べ400名以上	② 「新着図書案内」や「図書館便り」などの発行回数10回以上 ③ 全校生徒の年間貸出総数 600冊以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア委員会を中心に、一般生徒や各部活動に対して広報活動に力を入れ、ボランティアの意義を伝えたり、活動報告をしたりすることで意識を高揚し、地域施設への訪問・交流の参加生徒の増加を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・刊行物の内容刷新を図る。職員による推薦本紹介など、生徒に関心を持たせ、興味を引くような紙面づくりを考える。 ・図書委員会の活発な活動を促すことで、図書委員自身が読書習慣形成の牽引役となれるように工夫する。
達成度	① 年間延べ約49名	② 13回(新着図書案内10回、図書館便り3回) ③ 702冊/600冊(目標値に対して117%)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・奉仕活動 1・2年生がクラス単位で通学路や学校周辺の清掃活動はすべて中止。 ・地域交流活動 1) 高齢者福祉施設の納涼祭にコロナのため参加できなかった。 2) 華道部が福岡駅待合室とにぎわい館に生け花を展示。 3) つくりもんまつりが中止となり、美術部、茶道部、ESS部が参加できなかった。また、福岡中学校や地域の方と共に行う早朝の清掃活動も中止。 4) 吹奏楽部・ボランティア委員会・生徒会・希望者が高岡聴覚総合支援学校に出向き、手話を交えての音楽交流を3月に実施予定だったが中止。 5) 外部団体が主催する活動に募集をかけることができなかった。 6) 小学生の英語教室と授業サポートも中止。 ・学校行事への招待 1) 体育大会が中止となり、生徒の祖父母を招待できなかった。 2) 学校祭は実施したが、高齢者福祉施設の方や園児は招待しなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書感想文コンクール(夏期)、読書週間(2学期)、読書会(1月)、福岡ひばり園での読み聞かせボランティア企画(3学期)等、各行事を通して、図書に親しむ態度の育成を図った。 *コロナ等による中止：新入生リエンション、古本市「来(らい)ぶらり」、読書新聞作り(2年総合)、3学期読書週間(豪雪休校) ・年間図書貸し出し数は、1月末現在冊で702冊(ただし、今年度は6月からのデータで、読書週間は1回のみの実施での数値となっている) *下記参考データ参照 <参考>過年度の1月末貸し出し合計数 R1・H31/661冊、H30/896冊、H29/868冊 ・昨年同様、開館時間延長を実行。図書室の利用状況は昨年より活気が見られる。(コロナ対応で、仕切り用のアクリル板や段ボール板を設置しているため、収容人数は約半分だが、放課後は連日満員である。) ・昨年度3月に中止となった、「読み聞かせボランティア」を8月上旬に3年生中心で実施した。
評 価	D	A
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でもできるボランティア活動を生徒自身が考え、生徒が対人関係能力を身につけることができるよう一層の工夫を進めてほしい。 ・読み聞かせや、生徒の読書量を増やす取組みは、ぜひ継続してほしい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・(ボランティア)今年度はコロナの影響でほとんど活動することができなかった。交流活動ができるようになればいいが、交流以外にもできるボランティア活動やこの状況でもできることを考えさせていきたい。 ・(図書)委員会活動について、生徒主体で企画・運営を行い、より活発なものにしたい。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和2年度 福岡高等学校アクションプラン —6—

重点項目	その他（国際理解教育の充実）
重点課題	教科指導・特別活動・海外研修等を通じて国際理解を深め、情操豊かな人間を育成する
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・英国語学研修に参加した生徒たちは、現地での研修を効果的にするための事前研修を受けた上で、英国での貴重な経験を積むことで、人間的に大きく成長するとともに、外国語や外国文化を学ぼうとする強い意欲をもつようになっている。保護者にとっては費用の面で課題がある。昨年度はコロナの影響で直前に中止となった。 ・英語コースにおいては、英語セミナーでの6名のALTとの少人数による活動や外国人講師、グローバルに活躍する人材による講演を実施するなど、異文化交流、異文化理解のよい機会になっている。 ・英語スピーチコンテストを1年生全員が観覧し、巧みに英語で話す上級生の姿に感化され、実践的な語学力習得の動機付けになっている。
達成目標	英国語学研修参加生徒の充実度（研修全体を通して“とても良かった”割合）80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校祭でのグループごとのテーマ展示や、英語スピーチコンテストでの映像・写真を取り入れた研修報告、学校紹介DVDでの紹介等を通して、英国語学研修の成果や魅力の広報に努める。 ・1学期の間に1、2年生に対して参加者による報告会を開催し、より多くの生徒に魅力を伝える。 ・現地での研修に積極的に臨めるように、事前研修を効果的に組み立てる。 ・帰国後にアンケート調査を行い、充実度を測る。
達 成 度	コロナの影響で研修が中止となったため、代替としてオンライン海外研修を3月に実施予定。終了後にアンケート調査を実施し、充実度を測る予定。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・9月の学校祭で、英国語学研修の展示発表を行った。写真や映像を取り入れたプレゼンテーション資料、英国語学研修に参加した生徒の個人およびグループの研修課題（テーマ）の成果資料、参加生徒の感想、研修レポートを展示して、研修の様子や魅力を発信した。 ・1階西側廊下や1階LL教室内に、英国語学研修の様子を伝えるコーナーを設けて、写真や生徒手づくりのポスターなどを展示している。
評 価	A
学校関係者の意見	・海外の生徒とのオンラインでの交流を積極的に進めてほしい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、今年度と英国語学研修が中止となった。代替の研修も含めて、英語科や学年と連携をとりながら、研修自体の充実はもちろん、これまでの体験報告や成果を活かして、研修の魅力を伝えられよう努めたい。 ・コロナ後の英国語学研修について、今後さらなる検討が必要である。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)